

第15回

東京弁護士会会長に 「会長・副会長と語る会」について聞く

新進会員活動委員会委員 伊藤 献 (59期)

当会では、若手弁護士の意見を会活動に反映させるため、平成17年度に50期から57期までの若手弁護士と、当時の会長・副会長による「若手と理事者が語る会」が開催されました。その後、平成18年度に新進会員活動委員会が発足してからは、同委員会が主催するようになり、本年度は「東弁会長・副会長と語る会」と改称し、年4回開催しています（以下、「語る会」といいます）。

今回は、理事者側として参加されている山岸憲司会長に、「語る会」についてお聞きしました。



山岸会長と聞き手の伊藤委員

理事者と若手のコミュニケーションの場

伊藤：会長に就任される前から、理事者と若手が意見交換をする場として、「語る会」という会が存在することについては、ご存知でしたか。

会長：司法改革に伴う急激な弁護士人口増加の中で、若手弁護士の声を弁護士会に届けることの必要性については、理事者の側でも意識しており、理事者と若手のコミュニケーションの場として重要な会であることは、前年度の山本会長からの引き継ぎを受けて聞いていました。

伊藤：「語る会」では、毎回、議論のためのテーマを設定しており、若手の側では、新進会員活動委員会で情報交換等の準備をしていますが、理事者の側ではいかがですか。

会長：理事者側も、予め、新進会員活動委員会の担当副会長や、テーマに関連する事項の担当副会長から現状や問題点をあげてもらい準備をして臨んでいます。

若手の意識を前面に出した語るテーマ設定

伊藤：議論するテーマについては、出来るだけ若手弁護士の問題意識を前面に出したものを設定しています。今年度は、「弁護士の業務拡大」、「若手弁護士サポート制度（OJT等）について」等、弁護士人口増に関連

した業務の問題、研修の問題を多く取り上げることになりました。

会長：いつの時代でも、将来に対しての不安、どうやって自分の能力を伸ばしていけばいいのか、どうやって事務所を経営していけばいいのかといった不安は当然ありますが、近年の急激な弁護士人口の増加による不安、不満について、若手から意見や要望を聞くことは、当会にとって、とても意味のあることであり、理事者として真摯に耳を傾けていかなければならないと考えています。

伊藤：若手が最も気にしていると思われる就業問題や、業務拡大、研修をテーマにした回には、普段、あまり会務活動に出てこないような60期、61期の方々も多く参加されており、若手の問題意識の高さがうかがわれます。

会長：このような若手の問題意識に対して、弁護士の就職先を何とかしていくのも弁護士会の仕事であり、会としては、合同就職説明会を行ったり、組織内弁護士、任期付公務員の増加などに取り組んでいます。また、司法研修所を出て、職場を得られたとしても、事務所の中だけでは新人に対する教育指導が届かないこともあり得るので、就職後の研修等についても、若手弁護士がどのようなものを必要としているのか、若手と一緒に考えて、会として取り組んでいきたいですね。



若手の意見の当会活動への反映

伊藤：実際に「東弁会長・副会長と語る会」を通じて、若手の意見が会の活動の役に立ったことはありますか。

会長：第2回目に語られた「若手弁護士サポート制度（OJT等）について」の議論は、今年4月に実施を予定している「チューター制度」の制度設計に役立ちました。また、第1回目の「弁護士の業務拡大」での議論も踏まえて、会では法律相談の広報などの充実に向けて取り組んでいます。

伊藤：会長が若いころは、このような「語る会」が無い中で、弁護士会に対してどういう関わりをもっていったのですか。

会長：私は、かけ出しの頃はそんなに会務活動をしていた訳ではないのですが、あるとき、消費生活センターに講師派遣されたときに、「弁護士は司法試験を受けた後は勉強しないんですね」と言われ、新しい問題、専門性のある分野への取り組みが弱い、会の弁護士紹介もミスマッチが多い、と指摘されたことがあっ

て、その後、研修委員会の活動は熱心になりましたし、法律研究部の立ち上げにも取り組みました。今の若い人たちにも、積極的に動いて欲しいですね。

実際に、現在でも、新しい分野に挑戦して、新しいニーズに応えている若手弁護士がたくさんいると聞きます。このような活動には、当会としても十分にバックアップできればと思います。

伊藤：これまでに語ったテーマのほかに、語ってみたいテーマなどはありますか。

会長：若手も理事者も、同じ弁護士として、関心のある問題というのは同じものがあるはずです。テーマはテーマとしていろいろなことを語りたいですが、もっと、業務や会務について、ざっくばらんな意見交換をしたいですね。様々なキャリアを持つ人たちと、新しい活動や新しい取り組みについて、語り合うことは会にとっても、若い人たちにとっても重要なことだと思います。その意味でも、この語る会は貴重な機会ですので、これからも若手の方にどんどん参加して欲しいと思います。

伊藤：本日は、どうもありがとうございました。

「語る会」の一場面から

司会：弁護士会でのOJTについて、若手としてどんな制度があるかと思っていますか。

若手：検討されているチューター制度のように、ボス弁、兄弁として共同で仕事をする機会があれば

やりやすいですね。そうでないと、具体的な技術が高まらない。受任してお金にならないと



しても、そういう制度があったほうがいいです。即独の弁護士などは、学ばないと引きこもりになってしまうと思います。

理事者：ボス弁、兄弁がいない状況で、特に質問したいことはありましたか。

若手：抽象的に聞きたいことというよりも、具体的に仕事を進めていく上で、個別に聞いたり、確認したりしたかったです。

理事者：ボス弁、兄弁がいる人に聞きますが、ボス弁、兄弁から、特に良かったアドバイスはありましたか。

若手：積極的に動いて下さいというアドバイスが、気持ちが楽になりましたね。